研究テーマ：プロスペクト理論

名列番号：047 堂前 圭祐

1. 研究課題

人間の様々な行動様式を、心理学あるいは認知科学といった経済学以外の学問分野の研究結果を利用して、より現実に近い分析を行おうというものを行動経済学と呼ぶ。

今研究では、リスクのある状況下での意思決定は幾つかのプロスペクト間の選択、ギャンブル間の選択と解釈できることから、幾つかの仮想選択問題を実施して行動経済学の基本理論であるプロスペクト理論の意思決定の現象と **Kahneman & Tversky** によるプロスペクト理論をその結果から検証した。

2. 研究方法

(1) **web** 検索や文献調査での調査。

(2) 仮想選択問題を作成し、心理学の授業で実施。

(問題例) □A：80%の確率で100000円が貰え、20%で一円も貰えない。

□B：100%の確率で75000円が貰える。

(3) 実験結果を元に、考察を行った。

主なプロスペクト理論での意思決定の現象

- ・ 確実性効果 (**Certainty Effect**)
- ・ 鏡像効果 (**Reflect Effect**)
- ・ 孤立効果 (**Isolation Effect**)
- ・ 確率ウェイト関数
- ・ 価値関数

3. 考察

実験結果から利益領域では人は確実性を重視し（リスク回避）、損益領域ではリスク追求になる傾向が見られた。

また、人は確率を正しく認識することができない（確率ウェイト関数）、同じ利益と損益ではその感じる価値はイコールではなく損益の方が大きい（価値関数）から、人が合理的な選択ができないことを説明できる。